



7月13日(水)

2022年(令和4年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



人のためを考え実行へ

事業活動を通じて社会課題の解決に取り組む「LIFUL」の井上高志社長が「#地球塾2050」で講演しました。参加した東京都千代田区立麹町中学校の1〜3年生20人に「自分たちの手で求める未来を作ることができる」と呼びかけました。

幸せを作る人に

私が井上社長の話を聞いて一番感動したことは、人の幸せについてだ。

井上社長は「LIFUL」を創業する前に、大手マンションデベロッパーで働いていた。ある夫婦の物件を、その2人が納得できる物を探すために競合他社の物件を紹介した結果、夫婦を喜ばせることができた。なぜ井上社長は、自分の利益にならないことをしたのだろう。それは、「人に感謝されることや相手の笑顔を見たいから。人の幸せのため」と言っていた。



私はそこまでして人の幸せを作るということは、すごいと思った。もし私が井上社長の立場だったら、自分や会社の利益を考えてしまう。だからこそ、井上社長みたいに人の幸せを考えて、人の幸せを作れる人間になりたいと思う。

(蒲まりん)

「人類の幸福」への道のり

まず、僕は人類の幸福が何かを深く考えた事は無い。だが、人類の幸福への条件や問題などが、自分達が知っているほど身近である事を知り、改めて考える機会ができた。

人類の幸福への条件や問題は、とても分かりやすいものだが、世界平和の実現や地球温暖化への対策、未来技術の進化など、世界は多くの問題を抱えている。だからこそ、この話を聞いて、人類の幸福までの道のりは長いと思った。だが、

こういった問題に取り組む会社が未来に向けて多くのアイデアを出している事に感動した。

僕はこうした条件や問題が身近だからこそ、自分達にも何かできる事があり、実践して世界に貢献できると思った。

(渋谷将人)



制約からの解放

私は「制約の解放」を指した家の開発をしていることに興味を持った。そんな家が実現したら極端な話、海の中でも、宇宙でも、暮らせる。夢物語のように聞こえたが、実際に開発が進んでいると聞いて、その家を実現したら何ができるようになるか考える

と、とてもワクワクした。私も制約が少ない家を作ってみたいと思った。私は建築に興味を持っており、建築関係の高校に進学したいと思っている。私が考えていた建築とは、どこの土地に、どのような間取りで

建てるかなどを計算して設計図を作ることだった。しかし、井上社長のお話を聞いて、より快適でそれぞれのニーズに合わせた家をつくるには、家という概念から設計していくことも必要であるという新しい考え方を持てるようになった。このように、固定観念に縛られず、違う視点で物事を捉えて考えていきたいと思う。

(塚崎彩瑛)

水を循環

僕は井上社長の「水を循環させる」という言葉に驚いた。なぜなら、水を循環させるなんて聞いたことがないからだ。水蒸気を水に変え、雨水を循環させたり、シャワーや皿洗いに使ったりして、飲み水にできる。また車型の機械で海水を飲み水に変えて、水で困っている国や地域の人々に水を寄付する事もできる。井上社長がここまでできたきっかけは、ある夫婦の笑顔だと言っていた。そして、井上社長の目標は、世界の人々を笑顔にすることだという。

僕もみんなのことを笑顔にしたいので、牛のゲップを家庭で使えるガスに変える装置を作りたい。そうすれば、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減になって、人々が平和になると思う。

(杉山晴瑠汰)